

# ブラジルの政策金利引き下げについて

## ポイント① 政策金利を8.25%に引き下げ

9月6日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場予想通り、政策金利を1.00%引き下げ、年率8.25%とすることを全会一致で決定しました。

8会合連続での利下げとなり、2016年10月以降の利下げ幅は計6.00%となりました。利下げペースの維持は、市場参加者の大半の予想に沿うものでした。

## ポイント② 利下げペースを維持

同中銀は、インフレ率の鈍化を受けて同国の経済活動を支援するために、利下げペースを維持した模様です。

足元のインフレ率（拡大消費者物価指数）は引き続き低下しており、8月は前年比2.46%と同中銀の目標レンジの下限水準である3.0%を下回る低水準になりました。同中銀はインフレ動向について、「望ましい状況が続いている」としています。

今後のインフレ率見通しについて同中銀は、市場参加者が予測する政策金利水準（2017年末は7.25%、その後2018初めに7.00%まで低下、年末までに7.5%に達する。）を前提としながら、2017年のインフレ率については3.3%、2018年については4.4%程度と予想しています。

同中銀は、今回の利下げについて、基本シナリオ、リスクバランス、入手可能な幅広い情報を考慮し決定したとしています。また、インフレ率が4.5%の目標値に収斂していくことと、金融緩和プロセスは両立するとしています。

## ポイント③ 今後の利下げペース減速を示唆

同中銀は、「状況が基本シナリオ通り推移すれば、金融緩和サイクルのステージも考慮し、次回の会合で利下げペースを緩やかに減速させることが適切と現時点では考える」としています。

また、「状況が想定どおり推移すれば、緩和サイクルは段階的に終了に向かうと予想される」と述べています。

図1：政策金利の推移

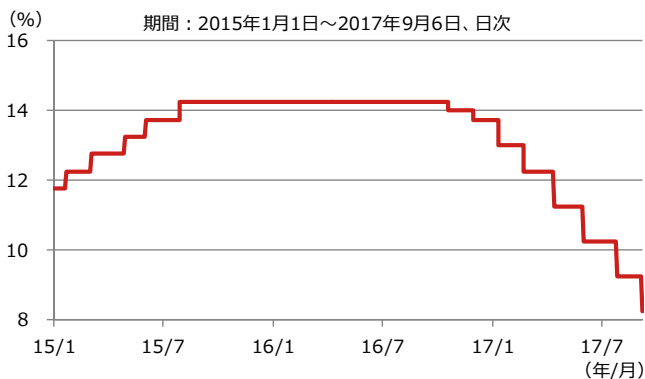


図2：拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移

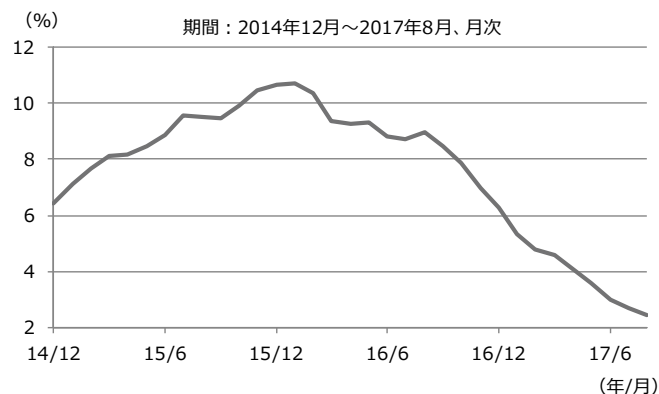
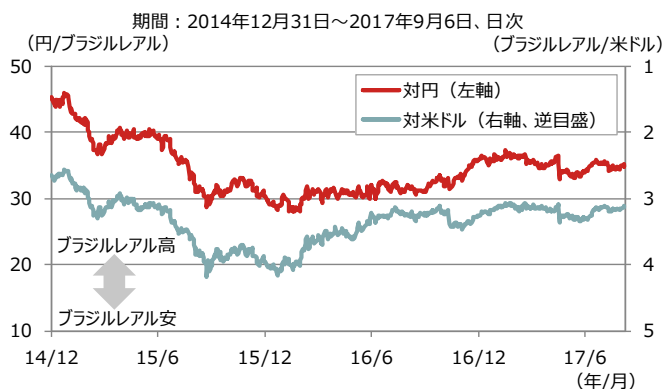


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

9月26日 経常収支(8月)

10月6日 IPCA (拡大消費者物価指数、9月)

10月25日 金融政策発表

**NOMURA**  
野村アセットマネジメント

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。